

現在頭の中では色々の構想が思

い浮ぶのであります、会員の方

全員が参加される訳ではありません

年令が八十八才強と云う事を念頭

において計画する場合、理想を避

け二善、三善策となるのは止むを

得ないと存ずる次第であります。

結論として諸般の條件を考慮し

て須磨地区を考えたのであります。

先ず新西国第廿四番の札所須磨寺

に詣で寺内を御案内願つた上で客

殿にて管長さんより法話或は源平

に因んだ史談を拝聴し続いて近頃

新聞紙上にも各地でその活躍振り

を報道されております須磨琴

一絃琴の演奏を請い、その後須磨

池畔の寿楼にて懇親会を催き大

いに旧交を温めて頂こうと云う構

想であります。

尚周辺には須磨浦公園、須磨植

物園、須磨水族園、須磨海濱公園

又ロープウェイによる明石海峡を

望む須磨浦山遊園等々数多く見る

可きものがありますので歩く事が

余り苦にならぬ方の為に、これ等

の案内図なども用意したいと考え

ておりますので、その日の天気に

もよりますが五月の燐燐とぶりそ

そぐ太陽を浴びての散策は神戸な

らではの地の利と自賛する次第で

あります。

何れ日が進み具体案がまとまり

次第御案内申し上げる次第であり

ます、その節には是非々々会員

の皆さん方にはお顔馴染の方々と

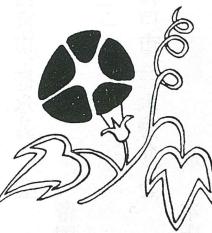
お誘い合せの上御参加頂きたいと

存じます。

以上をもちまして会務報告を終

らせて頂きます。御静聴有り難う

御座居ました。



第三十回全国大会

会務報告
平成元年五月十一日(木)
於 真言宗須磨寺大本山

幹事 小倉五郎

皆さん今日ワ!

第三十回辰巳会全国大会をお互いの想出の地、この神戸に開催致しました処北は北海道、東京及び中京は申すに及ばず、南は九州並びに四国からと賑々しく御参集頂きまして、その数実に六十有余名、幹事一同と致しましては拘に嬉しく存じておる次第であります。

憶い起しますればアノ悲運の昭和二年四月二日現在には千五百有余名在籍していた同志が現在では三百名が欠ける実態であります、何は兎もあれ明治、大正それに波乱万丈の昭和時代を生き抜き、平成元年を迎えて今ここにお集り頂きましたこのお元気なお姿を拝見致します秋、我こそ最後の一人に致します秋、我こそ最後の一人になるのだと云う意気込みで特に健康にはこの上共御留意の上大いに

和二年四月二日現在には千五百有余名在籍していた同志が現在では三百名が欠ける実態であります、何は兎もあれ明治、大正それに波乱万丈の昭和時代を生き抜き、平成元年を迎えて今ここにお集り頂きましたこのお元気なお姿を拝見致します秋、我こそ最後の一人になるのだと云う意気込みで特に健

康にはこの上共御留意の上大いに致します秋、我こそ最後の一人になるのだと云う意気込みで特に健

康にはこの上共御留意の上大いに

頑張って頂きます様念願して止みません。

処で今は会務としては特に申し上げる事項はありませんが先程受付でお渡し致しました包み。アレは彼の有名な神奈川の銘物、落花生の甘納豆であります柘山さんの御好意で皆さんへと二・三日前別便で五〇ヶ本部宛お届け頂いたものでありますので、感謝の念を以て御賞味頂きたいと存じます。

柘山さん——本当に有り難う御座居ました。一同に変りまして厚く御礼申し上げます。とは云うものの私には当りませんでしたが、アーチは失言。今のは影の声であります。お聞きにはなりません様に。

次に先程受付でお渡し致しましたパンフレット。宴会後の観光の便にと昨日搔き集めて参ったのであります。相憎くのこの雨で皆さんは拘に申訳ない次第であります。一応極く簡単に御説明申し上げたいと存じます。

一、離宮公園及び植物園は地続きで寿楼を出て北東へ十分足らずの処です。

それではこの方々の御冥福をお祈りして黙禱を捧げたいと存じます。黙禱始め。黙禱終り。

有り難う御座居ました。

御静聴感謝致します。

一、離宮公園及び植物園は地続きで寿楼を出て北東へ十分足らずの処です。

それではこの方々の御冥福をお祈りして黙禱を捧げたいと存じます。黙禱始め。黙禱終り。

有り難う御座居ました。

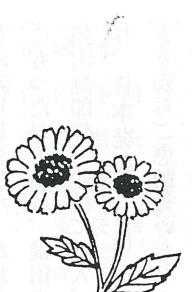
御静聴感謝致します。

それではこの方々の御冥福をお祈りして黙禱を捧げたいと存じます。

黙禱始め。黙禱終り。

有り難う御座居ました。

御静聴感謝致します。



たつみ 第51号

平成元年8月1日発行

編集人 松下重男

辰巳会本部

神戸市中央区海岸通4

太陽鉄工株式会社内

電話331-3281

六二・五・

それで最後に去る一月十九日
の東明閣に於ける新年例会以後に
亡くなられました方々を御報告申
し上げます。

芦屋市 大西田鶴子 金

神戸製鋼所

元・三・一

豊中市 柴田 忠九

六二・一・

大阪支店麦酒部

元・三・二・六

呉市 中西為義 金 呉船産業株

元・二・二・六

西宮市 鳥居規之 金

元帝人常務

名古屋支店

元・三・一

岡崎市 岡本志良 金

元・四・二・五

倉敷市 福本三郎 金

元・四・二・〇

本店貨物課

元・四・二・〇

帝国産業株

元・四・二・八

東京都 小川 謙 金

六二・二・

岡崎市 岡本志良 金

元・四・二・〇

本店貨物課

元・四・二・五

本店雑貨部

以上八名の方であります。

東京支部新年例会

平成元年一月二十六日(木)

東京築地のスエヒロに二十九名参集。安東幹事の司会で正后すぎから新年会を催しました。

最初に全員起立して亡き昭和天皇の御冥福を御祈り申上げて黙禱。次いで着席して辰巳会員物故者十名の方々のご冥福を祈り黙禱を捧げました。また、坂本寿様、藤沢義夫様、大松康祐様、には米寿を、植田三男様には喜寿を、めでたくお迎えになつた事を皆様にご披露申上げてご長寿をお慶びしました。

本年も函館より加地彦太郎さんが空路参加して戴き感激でした。

続いて植田支部長から、丁重なるご挨拶があり、そのあと大変ご健康で米寿を迎えた坂本寿様の发声で皆様の健康を祝して乾杯、食事に移りました。

皆様久方振りの顔合せとあつて食事をしたらお互いの宅の途につかれました。本当に有難うございました。(芦記)



東京支部春季例会

辰巳会東京支部新年例会

平成元年一月二十六日(木) 順不同

荒木 従繩

木 田 辺 満寿子

大久保 上野 同 同

小川 植田 金治子

請川 田 幸子

田 鈴 坂 国 同

木 加 藤 同 同

木 本 地 五 同

木 美 太 郎 謙 潔

也 実 人 雄 雄 治

花 同 寿 駿 敬

清 同 長 橋 忠 一

也 同 特 別 来 賓

以上二十九名

(横浜横須賀有料道路)へ、ベテランガイドさんの説明を聞きながらバスは順調に走る。10時40分鶴

岡八幡宮着、流石に東京の喧噪、雜踏から離れた緑一段と濃い古都並び三大史都の一つといわれる鎌倉を訪ね、ゆっくり会席料理を楽しむという趣向。頼朝開幕以来八〇〇年の古都鎌倉を完全探訪するには一日がかり、いやそれでも足りないが今回は鶴岡八幡宮に詣り、長谷の大仏を拝観してから市西部に位置する鎌倉山にある櫻亭(らいてい)で懇親昼食会という、充分時間的余裕を考えた謂わばグルメ重点の旅行。

参加者二二名。

今年は春が早く来て、早くいつたとか、桜も終り、若葉の緑があざやかな、まさに快晴の初夏の陽気、

(東京で今年最高の22・9度を記録)東京駅前ビル角に集合の上、九時バスで出発、車中で安東さん、加藤さんの挨拶、東名高速から

国道16号線を経て横横道路



辰巳会東京支部春季例会
平成元年四月二十日
順不同
荒木 従繩
木 田 辺 満寿子
大久保 上野 同 同
小川 植田 金治子
請川 田 幸子
田 鈴 坂 国 同
木 加 藤 同 同
木 本 地 五 同
木 美 太 郎 謙 潔
也 実 人 雄 雄 治
花 同 寿 駿 敬
清 同 長 橋 忠 一
也 同 特 別 来 賓
以上二十二名

二度の大火に見舞われ、現在の社殿は文政十一年(一八二八)に造られたそうだが観光都市となつた今もやはり八幡宮は鎌倉の中心である。約40分間参詣と境内散策。別当公暁が叔父実朝を斬った時、隠れて待ちうけたといわれる樹齢千年の隠れ銀杏や、源平池、ぼたん園等思い思いに見てまわつたり、社務所や売店での買物に時を過す。休日ではないがシーズンなのが観光団体が多く、特に高校生の修学旅行団体の多いのが目立つ。

鎌倉は車の渋滞や排気ガス汚染

健康を確かめ合い歓談。明治、大正、昭和、そして平成に。ご自分の生年により四代、三代、二代に亘り一世を経験されたことになり、それを立場で世の移り変りをご覧になり、そのうえ貴重な体験をされてこられたことでしょう。

スエヒロ自慢の良質ビフテキが之等歓談に花を添え、美味しい味が一段と話の引立役となり時の過ぎるのを忘れさせるようでした。

宴中半の頃合いを見て、今回特が一段と話の引立役となり時の過ぎるのを忘れさせるようでした。

が一段と話の引立役となり時の過ぎるのを忘れさせるようでした。

(一) 雲は地中の異変を反映します。
(二) 朝早く、また夕方に、ふだん見えない姿、色合いの雲が出る
とした)から『雲による地震予知』
という特別講演を、

の要旨で約三十分钟、お話を挙

聴しました。空を見上げて、一見なんでもないと思われる雲でも、

その時に限つて現われるその特異な姿や色合いで地震に繙がる兆候を私達に示している地震雲だとい

うお説に、一同真剣に傾いておられました。これでお話を終り、鍵田様は時間の都合で中座されました。

このあと会員の楽しいおしゃべりが続きましたが、そろそろ時間が

がまいりましたので、芦原幹事が

ら『これからも皆様には身体を充

分おいとい下さって元気で再会を

期しましよう』の締括りの挨拶で午後二時すぎにお開きとなりました。

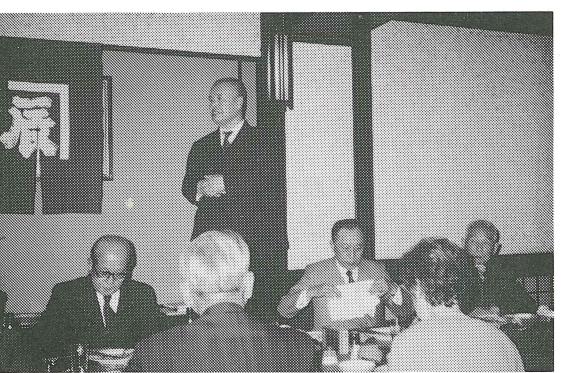
このあと会員の楽しいおしゃべりが続きましたが、そろそろ時間が

がまいりましたので、芦原幹事が

ら『これからも皆様には身体を充

分おいとい下さって元気で再会を

期しましよう』の締括りの挨拶で午後二時すぎにお開きとなりました。



を排除するため「観光は電車で」を提倡し、その為新たに駐車場は作らないようにしているとか、外からの車乗入れ制限もやむを得ないのである。お蔭で次の立寄り拝観予定であつた長谷の大仏（淨土宗高徳院の本尊、阿弥陀如来坐像）もバスを駐める場所がなく、やむなく脇を素通り、葉桜の並木が続く坂道を暫く上ると左側に一きわ目立つ見るからに歴史を感じさせる古い山門、これが権亭の入口である。この山門は頼朝が創建し、大正十二年に廃寺となつた高松寺のものの由、長谷の大仏を素通りしたせいで予定時刻より30分前の正午頃到着、山門を入った直ぐの本館前で先ず全員揃つて記念撮影、一時の会食予約時刻までの約一時間を山の中腹斜面の三万坪廻遊式純日本庭園を散歩したり、すぐ近くの棟方志功版画美術館見学に足を向けたりしてすごす。午後一時より横浜の豪農旧家を移築した本館の座敷広間に集まり、大久保さん发声の乾杯で始まりゆつくり会席料理を堪能、和やかな歓談のうちに約一時間半が経つ。



午後二時四十分権亭山門前発、途中若干の断続的渋滞があつたが概ね順調に午後五時、朝の集合地に全員無事帰着、車中では西村さんの挨拶があつた。
天気にも恵まれ、一同満足してお土産を手に帰宅の途についた。
以上

辰巳会名簿

今村 三郎

拝啓

貴会益々ご清栄の段心よりお喜び申上げます。「たつみ」第五十号拝受、特に四国支部親睦会だよりの中で南前さんが高知の浦戸海軍航空隊……の記事を拝見、小生も昭和二十年三月焼野ヶ原の神戸を後に宇野高松、土讃線にてB29・グラマンの空襲下高知に参り浦戸海軍航空隊にて予科練の第二次試験を受験した経験があり、なつかしかつたです。一度機会があれば南前さんとゆっくり昔話を致し度いものです。

父頼吉が亡くなりこの九月で早いもので満十年になります。小生も父の真似事で恐縮ですが拝句を別紙のように同封致しましたので紙幅に若し余佑があれば宜敷くお願い申上げます。

敬具
末筆ながら辰巳会の益々のご発展をお祈り申上げます。

敬具

植田 三男

拝啓

ようやく春めいて参りました。御健勝のことと存じ同慶の至りです。

本年喜寿を迎えるに当たり立派な陶器龜山作草文鉢を贈与賜り厚く御礼申上げます。この機に一層健康に留意し皆様のご期待に副うべく努力致す所存でござります。これからも何かと御指導を賜りますよう御願い申上げます。

先は右御礼まで。辰巳会のよき发展と貴殿の御自愛を祈ります。

敬具

亡夫 小松 彰男

内 小松 彰笑
致しまして御礼のご挨拶申し上げます。

六月二十一日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

謹啓

皆様には益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。

亡父岡本志良の葬儀に際し皆様から賜りました御厚情に心より厚く御礼申し上げます。又生前の父に頂きました御引立、御寛容そして御鞭撻に深く感謝の意を表します。

かしこ

敬白

平成元年六月二十日

岡本 賢治

御家族皆様の御健勝をお祈ります。

<p